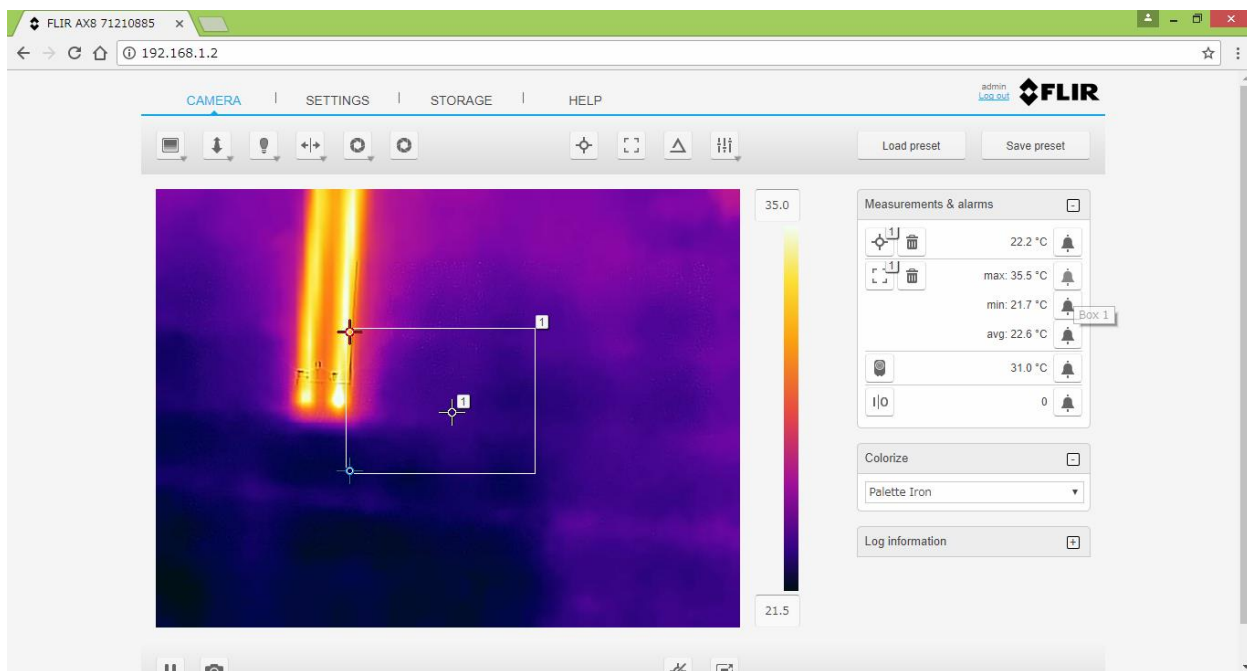



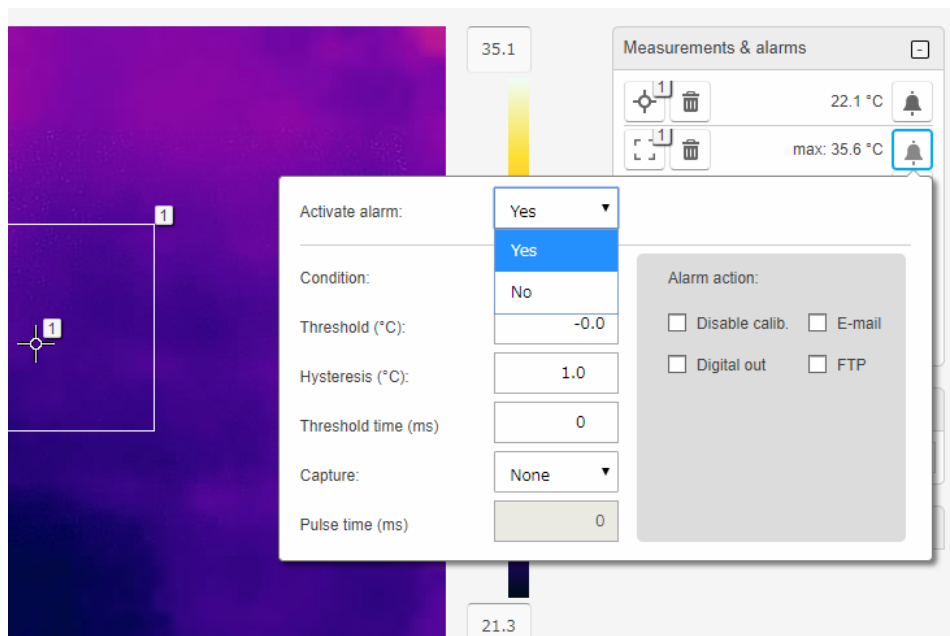
【アラーム設定方法について】



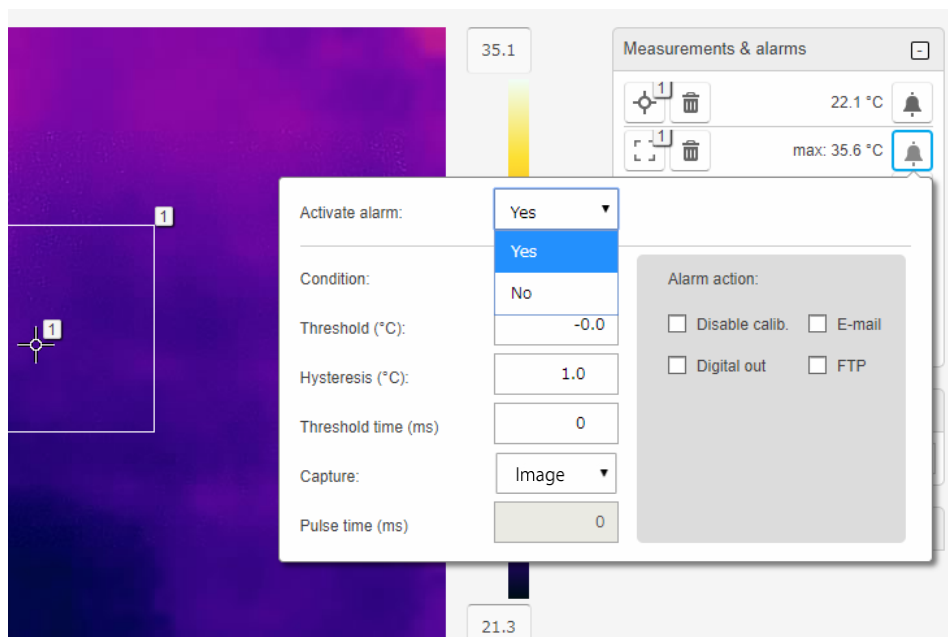
スポット、ボックスの測定結果に基づくアラームを設定することができます。
また、カメラ内部温度センサーに対してアラームを設定することもできます。

アラーム設定については、以下の手順を行います。

1. [Measurements & alarms]セクションで、アラームに使用する測定結果の横にある [Alarm]アイコンの  をクリックします。クリックすると、アラームパラメータ及びアクションを設定できます。





【アラーム設定方法について】



2. [Active alarm] : [Yes]を選択し、アラームをアクティブ化します。
3. [Condition] : アラームを発砲する条件を選択します。
 - Above : 閾値より温度が高くなった時にアラーム発砲します
 - Below : 閾値より温度が低くなった時にアラーム発砲します
4. アラームとして使用する温度値を[Threshold]に入力します。
5. [Hysteresis]には、ヒステリシス値を入力します。

ヒステリシスとは、温度変動の許容範囲であり、その範囲内では温度が変動してもアラームが発生しません。上限側の閾値として30.0°C、ヒステリシス値として2.0°Cを設定した場合は、温度が30.0°Cを超えるとアラームが発砲され、28.0°Cを下回るまでアラーム状態が維持されます。一方、下限側の閾値として30.0°C、ヒステリシス値として同様に2.0°Cを設定した場合、温度が30.0°Cを下回るとアラームが発砲され、32.0°Cを超えるまでそのアラーム状態が維持されます。
6. アラーム発砲するために必要な最短時間を[Threshold time]テキストボックスに入力します。
7. [Capture]リストボックスで、アラームが発砲されたときに画像または数秒のビデオシーケンスを取得して保存するかどうかを選択します。

ここは、「Image」もしくは「Video」を選択します。※Noneを選択すると、アラーム設定が保存されません。
8. アラームが発砲された時にカメラで実行するアクションを[Alarm action]のチェックボックスを使用します。
 - Disable calib : 画像/ビデオが取得されている間、周回的なキャリブレーションを一時的に無効にします
 - E-mail : 取得された画像を送信します。
 - Digital put : デジタルパルスを出力します。
 - FTP : 取得された画像を指定のFTPサイトへ送信します。

アラームがアクティブ化されると、[Alarm settings]アイコンが青色の枠  になります。
アラームが発砲されると、[Alarm settings]アイコンが赤色の枠  で表示されます。